

5 北杜市次世代エネルギーパーク全体構想

5.1 基本理念

北杜市は、環境省の名水百選を3箇所（「八ヶ岳南麓高原湧水群」「尾白川」「金峰山・瑞牆山源流」）有する全国唯一の市町村であり、ミネラルウォーター生産量が日本一などの名水の里として知られ、清らかで豊富な水資源を有し、日照時間日本一を誇る豊富な太陽エネルギーに恵まれています。そして森林が市の総面積の73.2%を占め市内には2つの国立公園、1つの国定公園があり、「日本百名山」に選ばれた八ヶ岳、甲斐駒ヶ岳、金峰山・瑞牆山を有する自然豊かな市です。また、都心から2時間程度という立地条件から年間約700万人の観光客が訪れ、八ヶ岳南麓を中心に、別荘等の週末利用者や二地域居住が進み、都市近郊型のスローライフが実践されている地域となっています。

このような地域特性を活かし、北杜市では平成18年3月に北杜市地域新エネルギービジョンを策定後、基本理念である「人と自然と文化が躍動する環境創造都市～水と緑と太陽の恵みを次世代に伝えるために～」の実現を目指したまちづくりが進められ、NEDO技術開発機構のNEDO北杜サイトの取り組みに加え、教育施設及び公共施設への太陽光発電システムの導入・検討、小水力発電、バイオマス利活用の導入・検討など新エネルギーの普及促進を積極的に展開しています。

今後は、“脱温暖化”・“クリーンエネルギーの創造”に向けて市民、事業者、団体、北杜市に加え、県外からの観光客、視察・見学者等と地域の交流を進め、環境保全やエネルギー問題への意識啓発を図り、共通の現状意識を持ち、積極的に問題解決に取り組むことが一層重要となります。

一方、国は平成18年5月に策定された「新・国家エネルギー戦略」（経済産業省・資源エネルギー庁）の中で「国民が新エネルギーや省エネルギーなど新たなエネルギーの生産・利用を目で見て触れて理解できるよう、次世代エネルギーパークという形でエネルギーの地域拠点を整備する。」とし、次世代エネルギーパークの整備を推進しています。

北杜市は、これまでの取り組みをさらに進めるため、北杜市次世代エネルギーパークを構築し、北杜市の「豊かな自然」「新エネルギー設備」「人」などの地域特性を活かしたアクションエリア（行動域）において、新エネルギーの導入、エネルギー環境教育・学習、体験ツアー等を市民・団体・事業者等と協働により実践することで、エネルギー問題、地球温暖化問題への理解促進を図り、環境へ配慮した自主的な行動・活動を促す、「持続可能な地域社会と地域環境をつくるアクションエリア ～北杜市まるごとエネルギーパーク～」を目指します（図5.1-1）。

【基本理念】

持続可能な地域社会と地域環境をつくるアクションエリア

～北杜市まるごとエネルギーパーク～

図5.1-1 北杜市次世代エネルギーパーク構想の基本理念

5.2 基本方針

「持続可能な地域社会と地域環境をつくるアクションエリア ～北杜市まるごとエネルギーパーク～」を基本理念の下、北杜市の現況やアンケート・ヒアリング調査等の基礎調査の結果を踏まえ、次のような3点の基本方針を示します（図5.2-1）。

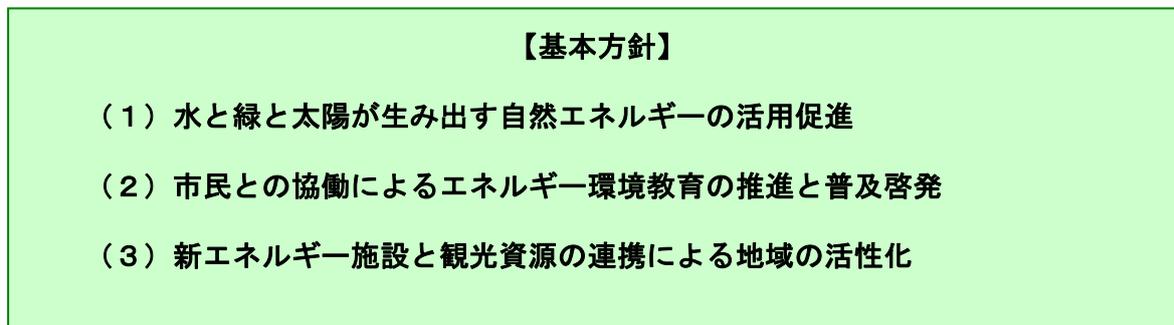


図5.2-1 北杜市次世代エネルギーパーク構想の基本方針

(1) 水と緑と太陽が生み出す自然エネルギーの活用促進

北杜市は、環境省の名水百選を3箇所（「八ヶ岳南麓高原湧水群」「尾白川」「金峰山・瑞牆山源流」）有する全国唯一の市町村であり、ミネラルウォーター生産量が日本一など名水の里として知られ、清らかで豊富な水資源を有し、日照時間日本一を誇る豊富な太陽エネルギーに恵まれています。そして森林が市の総面積の73.2%を占め市内には2つの国立公園、1つの国定公園があり、「日本百名山」に選ばれた八ヶ岳、甲斐駒ヶ岳、金峰山・瑞牆山を有し、毎年多くの観光客が市内外から訪れている緑豊かな市です。

このような地域特性を活かして、水と緑と太陽を中心とする自然エネルギーの活用を促進します。

(2) 市民との協働によるエネルギー環境教育の推進と普及啓発

北杜市の豊かな自然の恵みは、将来の世代に引き継いでいかなければならず、一人ひとりがどのような生活を送り、行動するかにより、次世代の環境が大きく左右されることとなります。美しい北杜市を次世代に引き継いでいくために、一人ひとりが日常生活の中で意識的に環境に配慮した行動をとり、積極的に問題解決に取り組むことが重要です。

このためには、一人ひとりの環境に対する意識を高め、地球環境、エネルギーについて学ぶことが必要であり、環境教育・学習が重要な役割を担います。

北杜市では、豊かな自然や地域の中で、環境・エネルギーの大切さを実感しながら、環境・エネルギーについて学ぶことができます。

また、環境教育・学習を活性化するためには、地域にある知恵と力を共有することが効果的であり、地域で環境教育・学習など環境活動を実践している人材の参加を得ることが有効です。

北杜市は、平成20年3月に「北杜市地球温暖化対策・クリーンエネルギー推進協議会」（温対法26条関係）を設立し、市民、事業者、団体及び北杜市が協働して、地域の実情に即した温暖化防止対策の実践行動を促進し、クリーンエネルギーの利活用を推進しています。

さらには、オオムラサキセンターはじめ、環境教育発祥の地である財団法人キープ協会

など多くの団体等による幅広い環境教育・学習が実践されています。

こうした人材を把握し、環境教育のニーズに対応できる体制を構築するほか、北杜市の自然・歴史・クリーンエネルギーを伝える「北杜市版インタープリター」の養成を図ります。

(3) 新エネルギーと観光資源の連携による地域の活性化

北杜市は、恵まれた自然環境と都心から約2時間という交通アクセスの良さに加え、八ヶ岳や尾白川など大自然が織りなす色彩の美や四季折々のイベント、10箇所の公共温泉施設、100を超える芸術・文化施設、名産があり県内外から年間700万人を超える観光客等が訪れています。

さらには、稲作や酪農・畜産などの農業が盛んな地域であることから、グリーンツーリズムを中心に都市と農山村の交流が多様な主体のつながりの下、展開されています。

また、市内にはNEDO北杜サイト、村山六ヶ村堰水力発電所などの新エネルギー施設が行政、企業等により多数整備されています。NEDO北杜サイトには、国内外から年間2500人を超える視察・見学者が訪れています。また、近年、小水力発電導入拡大の動きが積極展開されており、村山六ヶ村堰水力発電所への視察・見学者も増加しています。

このような市内に点在する観光資源と新エネルギー施設を、それに関わる人々により環境保全型のエコツーリズムに展開し、各主体のニーズを満たし合うことで相乗効果（場をつなぐ・主体をつなぐ・施策をつなぐ）を図り地域の活性化を推進します。

5.3 次世代エネルギーパーク整備方針

次世代エネルギーパークは、太陽光等の新エネルギー設備や体験施設等を整備し、新エネルギーをはじめとした次世代エネルギーについて実際に国民が見て触れる機会を増やすことを通じて地球環境と調和した将来の次世代エネルギーのあり方について国民の理解の増進を図ることを目的としたものです。なお、整備する上では、国（経済産業省）が示している「次世代エネルギーパーク構想」の条件に合致していることが必要です（表5.3-1）。

また、複数の新エネルギー設備が複数の地域にまたがる場合には、中心的な施設を整備し、次世代エネルギーパークの全体像が把握でき、一体的に見学できるような工夫が必要となります。

北杜市の総面積は、602.89平方キロメートルで、山梨県の総面積の13.5%を占め、山梨県内で最も面積の大きな市であり、基本理念である「持続可能な地域社会と地域環境をつくるアクションエリア ～北杜市まるごとエネルギーパーク～」を構築するためには、各主体の人と人のつながりを生み出し、連携を通じて地域の特性を活かした活動を生み出していくことが必要です。

また、活動を通じて生まれる学びの場として実際に見て、触れて、生命や自然の大切さを感じとり、環境の大切さを学び周りの人たちに伝えられる人材を養成することが必要です。次世代エネルギーパークを整備するにあたり、市民アンケートや事業所・団体アンケートから北杜市次世代エネルギーパーク構想の推進時の優先事項として「気軽に利用できる活動拠点の提供・整備」や「情報発信機能の強化」「学習機能の強化」を求める声が大きく、新エネルギー設備のほかに、市民が気軽に利用できる学習機能やビジターセンター施設などの整備の検討が必要です。

一方で、市財政状況の厳しい中で新たなハコモノ施設やエコツアーの意義に対して慎重な意見もあることから、市民に対して幅広く情報発信し、より理解を深めてもらうことが重要です。

表5.3-1 国（経済産業省）が示している「次世代エネルギーパーク」の計画の認定条件

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">①運営主体は自治体または3セクなど、自治体が主体的に取り組んでいること②維持費等の確保の見通しが立っており、運営主体による安定した運営・管理が見込まれること③多くの人々が訪れるよう、ハードやソフト面において、地元自治体や市民、地元企業等による地域の特色を生かした創意工夫がみられること④新エネルギー設備で得たエネルギーが周辺地区等において使用されること⑤原則として複数の種類の新エネルギー設備の見学が可能であること⑥既存の新エネルギー設備や関連施設がある場合は、これを最大限活用すること |
|--|